

## 会 議 録

会議の名称	第1回吉川市若者支援の在り方検討会議
開催日時	令和5年6月23日(金) 午後 6時00分から 午後 7時50分まで
開催場所	吉川市役所301・302会議室
出席委員(者)氏名	東宏行委員、鎌倉賢哉委員、仲野十和田委員、鈴木好弘委員、 下峠敦夫委員、郭育子委員、森泉佳歩委員
欠席委員(者)氏名	須田眞理子委員
担当課職員職氏名	中原市長、伴こども福祉部長、岡田こども福祉部副部長兼地域福祉課 長、桜井子育て支援課長、飯野子育て支援課長補佐兼子育て支援係 長、千葉児童館長、片桐地域福祉課地域福祉係長、中野障がい福祉課 課長兼障がい給付係長、金子商工課消費労政係長、澁谷市民参加推進 課男女共同参画・文化交流担当主査、木村少年センター主査、中村子 育て支援課主任、高橋地域福祉課主任、佐久間子育て支援課主事、菊 名子育て支援課主事、安藤子育て支援課主事
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開会 2 委員委嘱 3 市長あいさつ 4 自己紹介 5 会長及び副会長の選任 6 議事 (1) 吉川市若者支援の在り方検討会議報告書について (2) 各団体における取組について (3) 会議の進め方について 7 その他 8 閉会
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	1名
会議資料の名称	資料1 吉川市若者支援の在り方検討会議報告書(令和5年1月報告) 資料2 参考データ 参考資料1 吉川市若者支援の在り方検討会議設置要綱 参考資料2 委員名簿 参考資料3 傍聴要領
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	鎌倉賢哉委員、仲野十和田委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
1 開会	
2 委員委嘱	委嘱書交付
3 市長あいさつ	<p>本日より新たな委員2人に参加いただき、2期目の検討会議を開始する。1期目の際も話したが、私自身大学時代から不登校、引きこもりの子どもたちの支援をしており、その後NPO法人の理事長を務めている。政治家になる一つのモチベーションとして子どもたちの未来をしっかりと作り、不登校、引きこもりの子どもをゼロにしたいという思いがあった。しかし、15歳までの子どもたちは義務教育の中で、ある程度市として政策を打てるが、15歳を超えてしまうと県や精神保健での対応となり、なかなか市で直接子どもたちや若者を支援できないというジレンマを感じていた。</p> <p>そういった中で中学生までの子どもたちの不登校、引きこもりの支援に関してはここ数年間でかなり充実している。アウトリーチといって大学生がその子どもたちの家に行って支援をしている。今後はそれ以上の子どもたちで30歳までの若者、吉川の子どもで苦しんでいる子どもが1人もいないようにしたいという思いで、第一期の検討会議の意見をいただいた。</p> <p>本日は一期目にいただいた意見を振り返りながら新たに2期目に加わっていただいた委員の活動などを伺いながら、今年1年かけて、どういった内容を委員の方々と協議していくかを決めたい。今後ともよろしく願いたい。</p>
4 自己紹介	各委員、事務局の自己紹介。
5 会長及び副会長の選任	<p>会長：東宏行 委員 副会長：鈴木好弘 委員 会長及び副会長は、報告書の取りまとめを行う。</p>
6 議事 (1) 吉川市若者支援の在り方検討会議報告書について 中原市長	<p>会議の内容については、はじめに昨年の報告書について、次にそれぞれの現在の活動について、最後に今後の進め方についてとなる。イメージとしては過去・今・未来という形の三本立てで進めていく。</p> <p>1番目は、1期目にいただいた意見を報告書のとおり東会長をはじめ、委員の皆様にもまとめていただいているところで、これをベースに事務局から説明し、最後に東会長から総括をいただく形を取る。</p> <p>2番目は、各団体の取組や、今問題だと感じている新たな問題提起、あるいは1期目に挙げた問題にも触れていき、質問があればディスカッションしながら順番に話したい。</p> <p>その1、2を踏まえ、3番目は、今年の残りの会議をどう進めていくか、何に重点を置いていくか、そういったところをまとめていきたいと考えている。よろしく願いたい。</p>
事務局	<p>資料1について、概要を説明する。まずは5ページ、6ページについて、昨年度の検討会議は、6月、8月、10月の計3回の会議の開催、併せて、メールでも各委員から意見を頂戴して、最終的に報告書としてまとめていただいた。基本目標、基本姿勢、若者支援方策、行政の役割、若者支援の対象</p>

	<p>は15から30歳程度までという内容でまとめていただいている。</p> <p>7ページ、8ページの中で若者支援方策の取組が合計で5点あったため、現状の取組と今後の対応に関して説明する。</p> <p>①の『(1) SNSを活用した支援情報の周知』についてだが、こちらについては情報の効果的な発信、周知に関してどのように進めるべきか、事務局で調査研究を進めている。また紙ベースにおいても、引き続き、積極的な周知という意見を受け、まとめ次第、若者支援方策の周知啓発を進めたいと考えている。</p> <p>続いて『(2) オンラインや対面での支援体制の構築』については、今後相談会や面接会、講演会のような形で、若者支援関係者の方々と連携をしていきたいと考えている。秋ごろには開催したいと考えている。</p> <p>②のうち『(1) 当事者・家族の負担軽減』『(2) 支援関係者への活動助成』について、昨年度、経済支援が考えられないかという検討があった。この中で当事者に対する様々な負担が発生している現状、そしてそれを軽減することの必要性や、支援関係者に対する活動するうえで助成制度がどうあるべきか、すでに吉川市みらいステップアップ助成金があり、こちらの活用も考えられるが、人材育成や人材のマッチングという視点もあった。このあたりに関しては継続して協議ということで、今年度検討会議でご意見を伺いたいと考えている。</p> <p>③の『(1) 体験活動や就労先の紹介』『(2) 必要な医療へのつなぎ』については、仕組みを作ることにに関して意見があった。どのような形が仕組みとして市民の方にもわかりやすく、そして効果的に取り組めるのかという部分は、現在調査を進めているところである。</p> <p>『(3) 施設料の減免』についてだが、子育て支援課に相談をいただく中で、減免の対応ができるように対応していきたいと考える。</p> <p>『(4) 外国籍の若者のプログラム参加へのサポート』に関して、8ページの『⑤予防』を含めてであるが、昨年度の検討会議の中で、継続した協議の中でより検討を深めていくという方向性となった。この検討会の中でも引き続き意見をいただきたいと考える。</p> <p>『④支援関係者との協議の場の設置』だが、本日のこの検討会議のことであり、継続した形でこの検討会議を開催させていただき、若者支援につながる様々な方策に関して議論を深めていければと考えている。</p> <p>このような形で今年度は3回の会議を予定している。継続した協議となった部分に関して、引き続き意見をいただきたい。</p> <p>補足で、『③プログラムサポート』に関しては、仕組みを今検討しているところであるが、職場体験、医療機関を知らないかなど、相談をいただければ、随時、今からでも紹介、つなぐようにしてゆく。正式なフォーマットの作成には少し時間がかかるが、必要があれば今からでも個別に対応する。</p> <p>減免についても、施設を使いたい等の要望があればすぐにでも対応できるようにする。『③プログラムサポート』についてはすでに動いているという認識をしていただければと考える。</p> <p>『①当事者・家族と支援をつなぐ』に関しては、秋頃に相談会などを作り上げるために、SNSの発信などもそこに間に合うように、現在検討を進めているところである。</p> <p>経済的支援、外国籍の若者のプログラム参加へのサポート、予防については、継続という形で、前回までで委員から意見をいただいたところである。</p> <p>良くまとまっていると考える。相談については、今やオンラインやSNSを活用するというのが、様々な場面で急速に進んでいるため、取り入れる必要</p>
<p>中原市長</p>	
<p>東会長</p>	

	<p>があると思う。また、相談の内容も複雑になっている。そのため、総合的な窓口のような形で、相談先がわからない人に寄り添える窓口は必要という点は意見として出したところであった。これについては単独で項目立てしていないが、仕組みを作ったり、相談会を行ったりする中で試行してみると良いと考える。</p> <p>特に、外国籍の若者のプログラムはあまり検討できなかったため、課題として残されたところだった。また、1年経つと子どもや若者の状況が大きく変化することがあるため、現状把握をどのように進めていくのか、継続的に考えていく必要があると考える。</p>
<p>中原市長</p>	<p>相談体制の構築については事務局から意見はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>個別のケース対応をしている中で、子どもの問題を考えると、どのように窓口を案内したら良いのか悩むところがある。そのため、窓口について、どのような形が良いのか、わかりやすいのかなどについて、委員の意見も伺いながら考えていきたい。</p>
<p>中原市長</p>	<p>現状の把握については、地域福祉課では自殺に関するアンケートを取っており、子育て部門でのヤングケアラーの実態調査や、長寿支援課の高齢者計画の中でもヤングケアラーの調査を実施するなど、頻繁に行っている。今回の会議には多くの課が集合しているため、横串を通しながら、そういったそれぞれの調査に、若者のニーズを捉えられるような項目を入れていくというのが一つの方策かと思う。協議させていただく。</p> <p>外国籍の若者支援というテーマについては、今回から参加いただく国際友好協会の郭委員に核となっていたかどうかと考える。ぜひ後でお話をいただけたらと思う。</p> <p>今の話を踏まえて項目出しに対する意見も含めて、各委員の取組について、ご自身の課題に触れながら話をしていただけたらと思う。</p>
<p>(2) 各団体における取組の現状について 鈴木副会長</p>	<p>フリースペースPEACEとして活動している。活動内容は吉川市で第1、第3水曜日の午後に、就職相談会を開催するとともに、年に3回就職準備セミナーも担当している。ほかにも、農業を行っている。農業に関しては少年センターに月1回来てもらっている。来月からは仲野委員のつばさ学院とも連携をしていく。</p> <p>最近、川藤のほうでNPO団体が居場所を作ったため、そこと連携し、7月にイベントを实行しようかと検討している。今まで活動する場所がなかったが、今回知り合いのNPO団体が民家を借りたことで、その民家を活用するために、緊密に連絡を取り活動を広げようと考えている。</p> <p>また、毎週火・木曜日では流山市内でジョブサポート流山を行っている。35歳から55歳のいわゆる氷河期世代のメンタルサポートも兼ねて、就労支援を行っている。</p> <p>SNSを活用した支援情報の周知について、この若者支援あり方検討会議の参加団体だけでもネットワーク化して、これだったらこの人に聞けるといったように、個別につながりやすくするのはいいかな。</p> <p>また、必要な医療へのつなぎについてだが、病んでいる方が多いと感じるが、精神科に行くにはハードル高いと感じる。その間をつなぐソーシャルワーカーがいるため、その人と連絡を取りたいと思っている。つながりを作ることでより具体的なアドバイスができると考えている。</p>

	<p>外国籍の若者に対しての支援については、地域の人と交流することが良いと考えている。中でも、食べ物を活用することで、印象に残ると考える。例えば、日本の料理を紹介したり、外国の方の郷土料理を紹介したりといった交流があると、より良いのではないかとと思う。</p>
中原市長	<p>鈴木副会長が活動されている中で困っていることはあるか。経済的支援にかかわってくるかと思うのだが、NPOとして困っている部分を教えていただきたい。</p>
鈴木副会長	<p>活動する場に困っていたが、その問題については、東京カウンセリング研究所というNPOが瀬戸の公民館の近くの民家を借りたため、地域に周知を図りながら、そこを居場所として考えていけそうである。</p>
仲野委員	<p>NPOの活動として、不登校に関わる、現役の教師、民間の方、保護者のOBや、専門の方を集めて、現状を共有しようという取組を行っている。目的としてはお互いを理解しようというところ。話し合いを行うことで、相互理解につながり、結果的に不登校支援につながることもある。そういった会を定期的に20回程度開催している。ほかには、ホームページにて引きこもりの子どものことや窓口のようこともしている。</p> <p>参考データの吉川市における教育相談（少年センター）の実績について、令和2年から令和3年にかけて、教職員の相談が1人から55人になっているのはなぜかを伺いたい。</p>
事務局	<p>学校の先生からの相談が増えたというよりも、電話や訪問で担任の先生や管理職と密に情報共有を行うようにしたため、増えている状況である。</p> <p>こちらの様子もお伝えしつつ報告書にして、様子を細かく伝えている。</p>
仲野委員	<p>それなら良いと思った。小学校の先生は、悩みが出たときに相談する先生が周りにいないと言われる。私の開催する会に来て、悩みを言えただけでも良かったという方もいるため、ぜひ学校の先生とも共有したい。例えば学校の勤務時間内に公民館や学校で共有できればと考える。行政主導でこういったことができればより相互理解につながり、子どものためになっていくと思う。</p>
中原市長	<p>その集まりというのはケースワークをみんなでやるというよりも、不登校とは何かという根本的なところの講習や研修ということか。</p>
仲野委員	<p>参加者は、今持っている悩みをただ言うだけで時間は過ぎるところであり、学校の先生に来てもらおうと学校の先生もいい顔をして帰られるため、参加してほしいと考える。</p> <p>不登校の子たち、義務教育の子たちに対しては、アウトリーチが吉川市にはある。引きこもりに関しては自身でやったことはないが、アウトリーチが有効だと思う。引きこもりに対してはこちらから積極的に支援をする形でないとなかなか出てこないと思う。民間であれば良いかもしれないが、利用者にとっては、民間であると金額が高かったりするため、市が行うと安心できる部分はあると思う。</p> <p>そのような中で、市長のこれまでの経歴は大事だと思う。チラシなどで親が市長の話を聞ける機会を作ること、市民の関心が集まるのではないかと考える。いかにSNSを活用して市民に見てもらえるかを考える以外に、市長に話をしたいとすることが良いのではと感じた。</p>

鎌倉委員

越谷らるごの主な活動は5つで、フリースクールりんごの木を行っている。週5日行っており、現在40人ぐらいの小学生から20歳過ぎぐらいの子どもが在籍する居場所支援を行っている。2015年からは県の委託で埼玉県ひきこもり相談サポートセンターを行っている。年間約1,600件の相談があり、10代から50代までが対象。ほかにも、親の会を月1回やっている。また、引きこもった当事者本人の集まりを月2回程度開いている。福祉関係だが、自立援助ホームを運営している。養護施設を出たり、家で虐待があつて家庭で生活できなかつたりする子どもが、20歳まで育つ家の活動をしている。行政とのかかわりでは、わくわく体験プロジェクトという活動を行っており、当初は越谷市と共同で、不登校が一步踏み出すことに一緒に協力しようということから始めた。しかし本人が来られないことが多いため、最近は保護者をターゲットとした体験会を10年以上行っている。

そのような中で、支援の難しさを感じていて、こちらが必要だと考える支援があつても、本人たちが望んでいないこともある。アウトリーチもタイミングが合えば効果的だと思うのだが、苦しんでおり、人に会えない時期だと、さらに傷ついてしまう可能性がある。それによって親子関係がより壊れてしまうということもある。そのため、うまく利用できるかどうかは大事になってくる。丁寧に行う必要があると感じている。

経済的支援については、東京都がフリースクールの補助金というものを出している。今年は月2万円出しているのだが、補助金をもらうためには基本的には学校に戻るスタンスでないと出せない。そのため、学校に戻りたくないという人には補助金を受け取ることができない。お金を出すということはあるが、行政がお金を出すからには何かしらの結果が必要になってくると感じている。そこが難しいと感じる。

先程東会長からあつたように、現状把握という点でいうと、今はコロナの影響が大きかったと感じる。人と人との関係もだが、子どもの遊びについても、ディスコードやLINEを使い、直接会わない子が多い。フリースクールに通う子どもも、フリースクールで会わなくても、つながりを作ることができる。様々な人とつながれるといった良さもあるが、トラブルもすごく多い。何かやろうとしても、見えない部分が増えたことでより難しさを感じている。

オンラインは便利だが、去年、文部科学省が行った調査によると、オンラインを活用した事業について、積極的にやっている事業についても、うまくいっているとは言えないという経過であった。もともと基盤ができていて、活動ができているところもあるが、非常に難しいと思う。オンラインであるとながりを感じにくい場合もあると感じるので、使う場合は使い方を考える必要があると考える。

中原市長

今のアウトリーチ支援については非常に悩んだ上での決断であった。私自身民間で取り組んできた中で、行政の場合、例えば大学生に家庭に入っていく中ではその大学生が何年も継続して関わることができないといった点で継続性に欠けるため、思いとしては民間に担ってほしかつたが、アウトリーチ型の支援ができる民間が市内に無い中では、まずは行政が始めるしかないと思ひスタートしたところである。アウトリーチ支援に興味を示してくれる子どもを少数でも救うことができれば意味があるのではないかと考える。

仲野委員の意見の、市長として保護者向けの講演会を行うということは考えていなかった。周知の役に立つのであれば、例えば委員の方とのディスカッションという形で、市の取組についてお伝えできるのかなと思ひ。検討していきたい。

	<p>2万円の補助については、例えばイベントの参加費の無償化であれば、保護者の報告が必要なくなる。できれば、ダイレクトでプラスになるようなお金の使い方にしたい。鎌倉先生に、経済的支援の具体的な案を出してほしい。例えば、家族へ直接支援することは難しいので、イベントの参加費用を無料にするのはどうだろうかとか、人材の育成だったら、こういうところに市がお金を出してくれたらどうだろうか、といった仮説を1回出していた上で、検討を進めていくのはどうか。現在、吉川市みらいステップアップ助成金を通して、内容を精査した上で補助金を出している。その状況も踏まえて支援の形を提示していただきたい。</p>
<p>鎌倉委員</p>	<p>了承した。</p>
<p>中原市長</p>	<p>鎌倉委員に案を作っていただいて、それをベースに皆さんと協議出来ればと考える。よろしくお願ひしたい。</p> <p>仲野委員の教職員を交えての会については、土日や夜でなく日中で先生の勤務時間に関きたいということか。</p>
<p>仲野委員</p>	<p>今は、平日の18時半くらいに開催している。希望としては、学期に一度くらい勤務時間内に行いたいと考える。</p>
<p>郭委員</p>	<p>吉川市国際友好協会で活動している。吉川市での活動がこれで7年目である。深く関わるのは、学習部会というところの日本語教室で、特に日本語教室は市と共同で行っており、おあしすの生活工房が基本で昼夜に開催している。昼間は来日間もない親子が、海外の学校が6月卒業の影響で、夏に日本に引っ越される方も多い。夏休みの間、日本語教室に母が子どもを連れて2学期に向けて日本語を学ばないかと相談に来る例がある。これは、母が情報をつかんで、日本語教室を探せた良い例であるが、ほとんどはそうでないと感じる。</p> <p>多くの場合は、教育委員会から受託して活動しているため、学校で孤立し、授業についてもわからない状態ですごした上で、学校が嫌になり、不登校の気配が出ている状態で教室に来る。私が去年担当した児童についてだが、夏の間に来たときは目がキラキラしていたが、やはり言語と文化、特に日本の教育文化が海外と違うため、その適応準備段階がなく学校に行った場合は悲惨だなと感じる。</p> <p>その準備段階としては今の吉川市の状況だと、日本語教室が1回クッションになるという形ができているとは思うのだが、まだまだできることは膨大にあると感じる。</p> <p>学校の日本語支援の話をする、学校の日本語支援はマンツーマンで取り出し授業を行っている。学校の相談室などで実施するが、最近は相談室が埋まっており、放送室などを借りている場合もある。</p> <p>日本語支援については2種類あり、県費の日本語指導と、私たちが行っている日本語支援がある。</p> <p>マンツーマンの取り出し授業のため、言葉の前こ心を開いてくれないと何もできない。お互いの信頼感が必要であり、そういった中で、子どもからヤングケアラーのような話が聞こえたりもする。そういった際は報告書を作って担任の先生に読んでもらうこともあり、連携していくとさらなる支援が全体的につながると考える。</p> <p>支援についてだが、若者・子どもだけではなく、外国籍の支援については支援ではなくて、活躍の場を作っていくべきであろうと思う。それを国際友好協会が活動しているが、先生との間の連携ではもっとできる場所がある</p>

	<p>のではと考えるので、まだまだ教育の分野では不十分であると感じる。例えば、日本語支援で先生と連携していくことで、迅速な対応もできると思うが、先生の時間を拘束してしまうこととなってしまう。支援の依頼は本人と保護者と学校の先生が依頼を出すことで、教育委員会経由で私たちに伝わってくる。</p> <p>この流れに関して、先日アメリカから来た子については、日本語の支援が必要というよりも、英語の授業が簡単すぎてしまうという状況であった。そういった中で、家庭では日本語支援を第二外国語の代わりに使おうと考えたようだが、家庭や学校との打ち合わせが難しいと感じた。今できているのは家庭への相談だが、家庭の親御さんと子どもの意見の違いを含めて、学校と支援の内容が必要かどうかを協議していければと考える。</p>
中原市長	<p>課題が何かという視点でみると、日本語教室が十分に充実していないというところが課題か。</p>
郭委員	<p>子どもに対しては十分にできていないと感じている。</p> <p>改善点を考える場合、場所の問題がある。日本語教室は現在、おあしすで開いているが、夜の教室に子どもたちだけで来るということは難しいと思う。何か学校の放課後の活動の中で、1つの科目として日本語を勉強できる場所やスペースがあれば、彼らが暗い中来るということを減らせるのではないか。</p>
中原市長	<p>授業の延長で学校の中で日本語教室があれば、その子たちが、不登校にならないような予防にもつながるという点が1つ。</p> <p>ほかに外国籍の子どもたちに課題となっていることはあるか。</p>
郭委員	<p>外国籍の先輩が日本で活躍して、大学に進学するなどした、お手本になるような子どもを発掘できれば、その子どもたちを中心に、今の子どもたちが自分たちもできるという、メンタープログラムの視点を捉えて、自分たちもできるという場所・機会づくりをしていきたい。</p>
中原市長	<p>鎌倉委員のところで、外国籍の子どもは今いるか。</p>
鎌倉委員	<p>今はいない。</p>
仲野委員	<p>塾のほうが多い。インドネシアから2年くらい前に来ていた子がいたが、学校に行くというときに、辛くなって口を全然開かなかった状況であった。</p>
中原市長	<p>郭委員からは日本語教室の充実が1つ目の課題で、見本となる人物がそばにいればより良いという意見があった。</p> <p>それでは、その他の課題をどのように発見すればよいか。日本語教室だけでなく、全体の課題をどのように発見すればよいか。学校に行かない年齢の外国籍の若者たちが直接相談に来ることはあるのか。</p>
下嵯委員	<p>最近目立っているのは、川口市の夜間中学で、そこで外国籍の子が学んでいる。その後日本語ができるようになった後に、吉川美南高校に来る。そこから来た生徒は、日本語が流暢で、勉強したいという意欲が強い。</p> <p>県立学校では外国籍の生徒への対応が難しい中で、川口市の夜間学校では対応しており、普通の日本語学校とは違い中学校という形のため、長時間カリキュラムを組んで勉強できている。</p>



中原市長	日本語の壁以外に課題があり、行政的支援が必要な事例はあるか。
下峠委員	先ほどは成功例である。ほかの事例として、中学校は卒業したが、卒業証書がないため、高校に入学ができなかったということがあり、壁を感じた。県立高校と言えることは、夜間中学の紹介と、家庭に対し、吉川市周辺で日本語学校などを探していただくように案内することしかできない状況である。
東会長	義務教育段階では、日本語指導ということは予防的にできる。しかし、その先の高校に行けなかった子どもたちへの支援が途切れている例もある。そこを見ているところはないと考えられる中で、予防の視点は重要で、充実させる必要がある。 地域によって日本の文化に全く馴染めないということもある。そのため、現場のニーズを聞きながらプログラムを作っていく必要がある。
中原市長	行政に外国籍の若者の課題の声は届いているか。
事務局	中学までは、ある程度環境を作って見守っていくことができる。しかし、その先で途切れてしまうという事例が非常に多いなと感じている。進学に対する意識や制度への理解が、親も子どもも低いまま入国してしまうと、進学できず、誰も救えないというところが見えると感じる。またその後の相談は来ていない状況である。
中原市長	郭委員の関わりの中で、義務教育後の若者がいる家庭とつながっていると思うが、相談の状況はどうか。
郭委員	進学については、今ちょうど大学受験を考えている子がいて、その子は経済的な理由であきらめようとしている。そのため、様々な支援や奨学金の情報を探して、大学の見学に同行したりしている。 学校の日本語支援と日本語教室のみでは足りないと感じていて、ほかの方とも連携できればと考える。例えば少年センターなどと連携していくことができれば、もう少し支援を進めることができると思う。
中原市長	短期的には日本語教室の充実を検討してゆく。学校での日本語支援も含めて、郭委員の理想の形を提示いただいて、皆さんと検討を進めていきたいと考える。 もう1つは、中期的に、課題のキャッチの仕方も、国際友好協会がこう動けば、課題を拾って来られるなどの提示をいただきたい。同時に、市も外国籍の若者や家族の困りごとをどう情報収集できるかを検討する。それらを突き合わせながら、どう支援するのかを考えていくこととする。
東会長	義務教育までは少年センターなどで支援できるがそれ以降は、高校中退なども含めて大きな枠組みで相談に乗るシステムが良いのではないかと。義務教育段階が終わった後の年齢の子どもを総合的にみていく必要がある。
中原市長	そこも踏まえて考えるが、まずは、外国籍の若者の相談に限定して検討していくこととする。
郭委員	ほかに、学校の中での学習支援を進めている中で、発達支援の課題が出て

<p>中原市長</p>	<p>いると感じる。その課題は、日本人の子どもたちに比べて、外国籍は2倍と多く、現在外国籍の子が、特別支援学級に入っていく事例が多い。言葉の面で保護者の同意を得られないまま入っていくことが多く、気になっている。</p> <p>日本人の子どもの場合でも、家族が理解していくということは難しいところと考える。</p>
<p>森泉委員</p>	<p>吉川市社会福祉協議会では、市民の方が安心して生活ができるように様々な事業を行っている。高齢や障がいの分野の支援を進めてきている一方で、若者・子どもに対する支援がまだまだ足りないと感じる点が多い。そのような中で、今年度は子育て支援課と共同で大学受験長の応援事業を行ったり、子どもと若者に特化したセーフティネット事業を検討してこうという中で、研究したりしている段階である。</p> <p>また、若者や子どもとつながるきっかけが少ないという点が社会福祉協議会の中で課題が挙がっている。地域食堂やサロンなど、地域の中で積極的に活動している方とつながりがあるため、そこから気になる世帯などの情報を吸い上げて、社会福祉協議会では見守りを続けて、節目ごとにその人に合った支援を届けられるように見守り続ける支援をしていけたらと考えている。</p> <p>やはり問題のある若者や子どもに限らず、家庭というのは様々な課題を抱えており、家族・世帯への丸ごとの支援が必要だとも感じており、つながるきっかけが見つからない状況ではあるが、様々な制度を検討していきながら進めていきたいと考える。</p>
<p>中原市長</p>	<p>外国籍の家庭からの相談はあるか。</p>
<p>森泉委員</p>	<p>生活困窮の部分で貸し付けの制度があり、コロナの影響で収入が減ってしまったなどの理由で、貸し付けを受けたいという外国籍の方はみられた。しかし、言葉がなかなか伝わらなかつたり、借用書など難しい様式があつたりする中で、いかに説明をするかで悩んだところである。</p>
<p>中原市長</p>	<p>貧困というキーワードでは情報の入手や課題が見えてくるきっかけは持っているということか。</p>
<p>森泉委員</p>	<p>そうである。コロナの特例貸し付けというものがあつたが、かなり簡素化されており、簡単に借りることができる制度であつた。その際はかなり外国籍の方が見えて、おそらく外国籍の方のネットワークの中で情報が広まったと考えられる。はじめは日本人が多かつたが、ある時から外国籍の方が来るようになったが、最近は連絡が取れなくなつており、なかなか継続的な支援にはつながらない状況である。</p>
<p>下峠委員</p>	<p>夜間の講師をしている。生徒の中で、吉川市に住む生徒は昼間で3割にも満たない。夜間は2割に満たない状況。地元の中学校との連携について、年一回お互いの授業を見あうということをしている。中学校の先生との関わり、つながりについて考えているところ。</p> <p>外国籍について、日本語が難しい子がいるため、県から週3回、4時間ずつ支援員が来ている。主に昼間の子が参加しており、夜間の子は参加しづらい印象。ほかに、学習サポーターは週1回、2時間来ている。</p> <p>Ⅱ部については募集定員が埋まることはなく、日本語ができなくても入れる子もいる。そのため、数学はできても、日本語の国語や社会は難しく、日本人の生徒と同じような授業をする必要があるため、その子にとっては苦痛</p>

<p>(3) 会議の進め方について 中原市長</p>	<p>となつてしまい、辞めてしまうこととなる。 成功例としては先ほども話した、日本語ができるようになってから入ってくる子で、日本語さえできれば、活躍ができる。そういった子たちは立派に就職していく。</p> <p>今期、重要な検討課題としては、経済的支援と外国籍の若者への支援と予防の3点がある。</p> <p>経済的支援については、鎌倉委員と須田委員にこうあるべきではないかというたたき台を作っていただき、鈴木委員、仲野委員にも経済的支援には何が必要かという点を、1か月後を目途にメールで寄せていただきたい。事務局で取りまとめた上で各委員にフィードバックし、この内容を踏まえて、8月の議論で経済的支援はどうかを深めたいと考える。</p> <p>以後2回の会議で、毎回、経済的支援と外国籍の若者への支援を半分ずつ進めていきたいと考える。</p> <p>外国籍の若者への支援に関しては、郭委員が軸となり外国籍の子どもたちへの日本語教室を含めた支援の在り方を出していただき、各委員からも、外国籍の子どもたちの支援についての意見をいただきたい。</p> <p>さらに、若者だけに限らず、どうやったら外国籍市民の課題を行政・支援関係者が抽出できるのかについての意見を、1か月後を目途にいただきたい。それを踏まえ、市も対応を検討することとする。</p> <p>予防については、意見をいただきながら引き続き検討を進めていく。</p>
<p>東会長</p>	<p>会議の進め方は良いと考える。</p> <p>また、外国籍という表現が適切なのか疑問がある。実際、外国籍ではないケースがあり、最近文部科学省も外国人や、外国につながる子どもと表記しているため、表現は変えても良いのではと考える。</p> <p>最近、孤立・孤独対策推進法が公布され、これにより、協議会を作ることによって、個人情報も共有ができるようになる。支援が必要な個別の情報については、協議会の中だけで対応をするという仕組みづくりについては考えていくべきだと思う。</p> <p>今回の検討会議は、経済的支援と外国につながる若者のへの支援という2本立てで良いと考える。</p>
<p>中原市長</p>	<p>1か月を目途にメールでたたき台をいただいて、8月にそれを踏まえて検討していく。</p>
<p>7 その他 事務局</p>	<p>次回以降の検討会議の日程について、2回目は8月28日月曜日、3回目は10月23日月曜日、時間は18時からである。今回のご意見を踏まえ、第2回会議の資料を用意し、事前に送付させていただくので、よろしく願いたい。</p>
<p>8 閉会 鈴木副会長</p>	<p>様々な意見が出たと思う。次回もよろしく願いたい。</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和5年 7月7日 署名委員 鎌倉賢哉 署名委員 仲野十和田</p>	